

## 2004年度(平成16年度)第1回常務理事会記録

日 時：2004年(平成16年)1月31日(土)15:00~16:30

場 所：東京大学医学部2号館(本館)南側地下カンファランスルーム

出席者：廣川信隆(理事長)、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平(以上常務理事)、  
依藤 宏(幹事)、小森雄一郎(学会事務センター)

### .会議記録の確認

2003年度第6回常務理事会記録(案)及び同摘録(案)

2003年度第4回理事会記録(案)及び同摘録(案)

2003年度第4回理事会議事録(文部科学省提出用)(案)

### .報告事項

#### 1.庶務報告(高田庶務担当理事)

##### 1) 会員異動報告(正会員2,443名 2003年12月31日現在)

2003年11月分 入会者 正会員1名 退会者 正会員1名 住所変更等7件

2003年12月分 入会者 正会員1名 学生1名 退会者 正会員9名 学生1名 評議員1名(逝去) 会費未納による除名 正会員76名 住所変更等27件

##### 2) 教授就任による学術評議員就任者

山下俊英氏(千葉大・医・神経生物/旧 大阪大・医・ポストゲノム疾患解析学助教授)就任日：2003年11月1日

##### 3) 学会に届けられた文書等

通知等

a、文部科学省より「平成16年度科学技術振興調査費新規課題の募集について」(通知)

b、厚生労働省より「死体解剖資格認定要領の一部改正について」(通知):解剖学関係では資格認定要件が緩和されている。

c、第23回人体解剖トレーニングセミナー実行委員会より「第23回人体解剖トレーニングセミナー報告書」

書籍、定期通信他

日本医師会より「JMAJ Vol,46,No,11,12」他、4件の定期通信が届いている。

その他

東京医科歯科大学河原和夫氏より「医学研究及び先端医療のパブリック・アクセプ

タンスの向上に関する研究」(報告書)

#### 4) その他

「少量の核燃料物質の使用に関する規制」に対する要望書の提出

文部科学省原子力安全課において、国際安全基準に基づく新たなウラン、トリウム等核燃料物質の規制案が検討中であるが、この案によると電子顕微鏡の試料作製に大きな支障が出るようになった。これに対し、常務理事会では関係学会、関係各機関とも連絡をとりつつ解剖学会として文部科学省に要望書を提出する事とし、時間的制約から Web による理事会審議を実施した。その結果、原案どおり要望書提出が承認され、文部科学省に郵送するとともに、直接の手渡しをおこなった。

解剖学研究連絡委員会報告(科研費審査委員候補推薦について)

日本学術会議において平成 16 年 1 月 20 日に平成 17 年度科研費審査委員に関する説明会が実施され、その概要についての報告がおこなわれた。平成 17 年度の要点は以下の通り。 a) 従来とってきた学術会議からの「推薦」ではなく「情報提供」となり、順位をつけずに学振に送付する。但し、平成 17 年度はリストの上位の人に配慮する。 b) 前年度からの継続委員との重複の確認は不要。 c) 第 1 段・第 2 段の重複の確認は不要。 d) 長期出張予定の有無の確認は不要。 e) 1 段目は新規の審査員候補者の 3 倍、2 段目は 5 倍の「情報提供」を求める。(平成 17 年度は解剖学一般については第一段 24 名、第二段 40 名、但し第二段については解剖研連の属する基礎医学全体としての人数であり、研連間で人数、順位は調整する。神経解剖は第一段 9 名、第二段 10 名、但しこれについても第二段は神経科学一般、神経化学などとの合計の人数であり、研連間の調整で最終的な人数は決定する。) f) できる限り依頼者数以上の研究者の情報を提供すること。 g) 研究者は原則として平成 17 年 1 月 1 日時点で 63 歳以下の者とする。以上のように予告なく大きな変更がおこなわれた。解剖学会は時間的制約から例年の実績を基に既に科研費審査委員適任者推薦の手続きを、従来の基準に従い「学術振興会に推薦する時点で 61 歳未満の学術評議員」を対象として始めていたので、61 歳~63 歳の今回推薦の対象から外れた方については、至急公平性を保つための善後策をとることとした。

その他

##### a) 「新・人体の不思議展」に関する新聞報道

以前、解剖学会にも後援要請があり、断った経緯のある標記展覧会の中国で製作された標本について、一部処刑された人の遺体や購入した遺体もあったとする新聞報道(朝日新聞)があった旨、報告がなされた。

##### b) 国際解剖学会議 News Letter 送信に関するメールアドレス提供について

国際解剖学会議 井出組織委員長より標記 News Letter 送信のため解剖学会会員のメールアドレスを提供頂きたい旨申し入れがあり、アドレスの管理を厳重にすることを条件に同意した旨報告があった。

- c) コメディカルの解剖に関し、理事会を含めた広い範囲での審議が必要とされた。
- d) 事務局より科研費審査員候補者推薦について、現在受付中であるが、投票率は前回より低い旨、中間報告があった。

## 2. 編集報告 (柴田編集担当理事)

### 1) 「ASI」及び「解剖学雑誌」刊行報告

両誌とも順調に発刊されている旨、報告がおこなわれた。

- 2) 第16回国際解剖学会議予稿集及び2003年度支部学術集会抄録の取り扱いについて。国際解剖学会議予稿集はASIのSupplementとすることとし、地方会抄録については理事会の承認の下に今年度限りの特例として和文誌に掲載することとされた。

## 3. 企画・渉外報告 (河田企画・渉外担当理事)

### 1) 海外関連団体に関する諮問委員会報告

標記委員会より答申その1としてIFAAに関する答申書が報告された。

### 2) 第16回国際解剖学会議準備状況報告

メールアドレスを登録している会員に対し、メールを通じてNews Letterを流し、登録していない会員には別途郵送したこと、シンポジウムの準備状況などについて報告があった。

### 3) 2003年度奨励賞選考委員会報告

標記奨励賞につき選考をおこない、2名の受賞者を決定した旨、報告がおこなわれた。

### 4) 2級解剖組織技術士資格審査報告

2級解剖技術士および2級組織技術士の資格申請者1名に対し、資格ありと認定した旨報告があった。

### 5) 生物科学学会連合

生物科学学会連合第9回連絡会議についての出席報告がおこなわれた。

## 4. 会計報告 (山科会計担当理事)

### 1) 支部学術集会収支報告

第91回関東支部学術集会 第13回関東支部学術集会懇話会 79回近畿支部学術集会 第59回九州支部学術集会 第63回中部支部学術集会 以上5件の支部学術集会収支について、報告がなされた。

## . 審議事項

### 1. 2006年、2007年度総会・全国学術集会開催校

標記年度総会・全国学術集会の開催希望校募集案内を解剖学雑誌に掲載することが決定された。

### 2. 2004年度奨励賞選考委員会編成

次回までに案を作成することが決定された。

### 3. 2004年度永年会員推薦

資料に基づき審議がおこなわれ、理事会に提出されることになった。

4. 申請による学術評議員審査  
配付の資料を持ち帰り検討の上、次回の常務理事会において審議されることになった。
5. 2003年度技術士功労賞推薦  
原案の通り承認され、理事会に諮られることになった。
6. 「解剖学用語集」の出版  
医学書院よりの出版に関する覚書（案）、著作権契約書（案）が届き、今後の事業計画を書面で確認した上で承認することとし、理事会に諮ることとなった。
7. 「学術集会のあり方」に関する学術委員会の中間答申  
2005年度全国学術集會会頭の大谷修富山医科薬科大学教授の意見を待ち、審議をおこなうことになった。
8. コメディカル関係者の解剖実習実施についての各大学の取り組みや考え方をまとめるために、コメディカル委員長の大谷修富山医科薬科大学教授に依頼して、アンケート調査を実施することとなった。
9. 次回常務理事会、理事会日程：3月22日に実施されることになった。
10. その他：1) Webで審議したものも常務理事会に報告し、記録として残すことが確認された。2) 国際解剖学会に関して IFAA 執行部と今後どのような関係を構築するのか、日本解剖学会の立場をどのように表明するのかについて、組織委員会委員長井出千束教授、海外関連団体に関する諮問委員会委員 猪口哲夫教授、塩田浩平教授を交えた意見交換会を開き、その対応策について検討した。